

はじめに

はじめに、「勢いのある鳥取の体育」～はずむ心 豊かな学び 確かな力～の大会主題のもと、第52回中・四国小学校体育研究大会鳥取大会を米子市福生西小学校、米子産業体育館を会場に開催できましたことを大変光栄に思います。大会当日は、絶好の秋日和に恵まれ、中・四国各県から500名を超える先生方にご参加いただき、盛大に開催することができました。また、中・四国小学校体育連盟最高顧問 成田十次郎先生、東京学芸大学教授 松田恵示先生にご臨席を賜り、温かいご教示をいただきました。ご参会の皆様からも、多くのご批正・ご指導をいただきました。お陰様でたくさんの成果を収めて、盛会の内に大会を終了することができました。大会を盛り上げていただきましたすべての皆様に深く感謝申し上げますとともに心よりお礼申し上げます。

さて、平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の本県の概要は次のようなものでした。

体力合計点は小中学校男女とも全国平均値を上回っているが、小学校男女が前年度を下回る結果となっている。種目別にみると、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびの平均値は、小中学校男女とも全国平均値を上回っているが、長座体前屈は、小中学校男女とも全国平均値を下回っている。質問紙調査によると、小学校では、体育の授業に関して、「できた」「楽しかった」「もう一度授業でやりたい」と思っている児童の割合が全国平均値より低い傾向にある。また、幼児期に家の人と体を動かす遊びをしたり、地域の子どもたちと体を動かす遊びをしたりする体験が少ない傾向にある。小中学校とも、「運動が好き」「運動が得意」「体育の授業が楽しい」「1日1時間以上の運動習慣がある」と回答している児童生徒の集団は体力合計点が全国平均値を上回っている。学校質問紙調査では、小学校では体力向上に係る取組を行っている学校の割合が全国平均値より高い傾向にある。小中学校とも調査結果をふまえ、授業の指導内容・方法の工夫や適切な生活習慣づくり、教材の工夫等の取組が行われている。

以上が本県の調査結果の概要です。種目別にみると柔軟性に課題が残っています。運動を安全に行い、よりよい動きづくりのためには柔軟性が必要です。日頃から意識した実践が望まれます。また、学校や指導者の取組は確かなものがありますが、気がかりなのは、幼児期の遊びや地域での遊びの体験の少なさ、体育の授業で、「できた」「楽しかった」「もう一度授業でやりたい」と思っている児童の割合が全国平均値より低い傾向にあることです。これらを課題として、本県の小学校体育の充実・発展のため、更なる工夫・改善が望まれます。

中・四国大会開催年で多忙を極めた1年でありましたが、本年度事業について、役員の皆様のご尽力により予定通り実施することができました。毎年恒例の夏期一泊研修会には昨年引き続き安田女子大学徳永隆治先生をお招きし、「勢いのある体育学習の授業づくり」と題しご講演をいただくとともに、「教材づくりと指導のポイント」をテーマに実技研修でご指導をいただき、中・四国大会鳥取大会の最後の詰めとなる実りある研修会とすることができました。中・四国大会鳥取大会分科会発表の事前協議も充実したものになりました。それぞれの関係の皆様にはご苦勞をおかけしましたが、本県小学校体育研究の節目となる、充実した1年間であったことを大変有難く思います。

研究・実践のまとめとしてここに「あゆみ」第59号を刊行する運びとなりました。発刊に際しましては、関係者はもとより各郡市より貴重なご提案や研究実践記録をご寄稿賜りましたことに深謝と敬意を表します。

終わりになりましたが、鳥取県小学校体育研究会に対しまして、日頃よりご指導・ご支援をいただいております鳥取県教育委員会、市町村教育委員会をはじめ、温かいご指導、ご助言をいただきました各関係の皆様には心より感謝申しあげます。本研究会のますますの発展を祈念して、はじめのあいさつといたします。

鳥取県小学校体育研究会
会長 民 野 尚 義